

サイエンス・カフェ@近大COE



第6回「安全で美味しい魚を作るには」

サイエンスカフェ・レポート

🌟 **日時:** 3月10日(土)14:00~16:00

🌟 **場所:** 近畿大学農学部キャンパス内学生食堂 2F 喫茶

🌟 **テーマ:** 安全で美味しい魚を作るには

🌟 **タイムスケジュール:**

1. 受付開始 13:30-
2. あいさつ 14:00-14:05
3. 話題紹介 14:05-15:05 (3題 x 20分 = 60分)
4. 休憩 15:05-15:15 (展示品の説明)
5. テーブルで話そう 15:15-15:30 (まずはテーブルでお話しましょう)
6. みんなで話そう 15:30-16:00 (皆さんと一緒に考えましょう)

🌟 **提供話題一覧:** 水産研究所担当

1. **魚ができるまで:** 宮下 盛

体重700kgになるマグロも、卵は直径1mm、透明なふ化仔魚は体長3mm。これを育ててみれば、命の神秘とお母さんの苦勞が分かります。

2. **美味しい魚作り:** 家戸敬太郎

美味しいお魚ってどんなお魚でしょうか？お魚といっても色んな種類がありますし、調理の方法も様々です。そこで今回はお刺身に絞って考えていきたいと思います。特に、お刺身の歯応えを良くしようという我々の新しい取り組みについてお話しします。

3. **安全な魚作り:** 那須敏朗

養殖中の魚も病気になれば薬を使います。薬って大丈夫？他に方法はないのでしょうか？生産者の立場から皆さんの質問にお答えいたします。

🌟 **来場者:** 39人 (事前申し込み: 29人、内不参加2人) (当日参加: 12人)

🌟 **スタッフ:** スタッフ: 19人 (敬称略)

水研: 宮下、家戸、那須、中川、加藤、久保

環境: 永田・中瀬

漁場: 鳥澤・鈴木(勝)

奈良増: 柳下・鈴木(誉)・横井・川上・西田

流通経済: 山本・中原・鳥居・北野

🌟 話題提供者によるサイエンス・カフェ・レポート（中川さん：白浜PD）

《サイエンス・カフェ全体》

第6回サイエンス・カフェ@近大COEを3月10日（土）に近畿大学農学部キャンパス内学生食堂 2階喫茶にて開催いたしました。今回のサイエンス・カフェは、水産研究所グループが担当し、「安全で美味しい魚をつくるには」というタイトルで話題を提供いたしました。近畿大学水産研究所は、研究活動だけではなく、実際に種苗や成魚を販売しています。水産物の消費量が低下している中、今回のサイエンスカフェは、消費者の方に、スーパーに並んでいる養殖魚がどのように作られているのかを知っていただくことに力を置きました。

報告内容は、クロマグロを例に魚が出来るまでの生産過程について話題提供を行いました。生産過程の中で生き残りに影響する様々な問題があり、その科学的アプローチによって問題をクリアし、生き残りが増したことを報告しました。次に、美味しい魚をどのようにして作っているのかについて話題提供を行いました。魚の美味しさというのは様々ですが、脂と歯ごたえに代表されると思います。ここでは、刺身の歯ごたえを良くする研究について話題提供を行いました。最後に、養殖の魚の安全性について話題提供を行いました。養殖の魚の安全性を脅かすものには様々なものがあるということをお話し、特に医薬品について水産研究所が取り組んでいることを紹介しました。クロマグロの生産過程や養殖魚の安全性は一般参加者には非常に興味深い内容だったようです。

《映像・展示》

今回は、水産研究所が担当ということで、一般参加者が私たちのグループに何を期待しているか考えました。私たちは実際に生産し、販売しているので、現在生産している主力商品のマダイとトラフグの稚魚の展示を行いました。カフェ開始前および休憩中には沢山の一般参加者が展示水槽に集まっていただきました。また、多くの方に餌やりを体験していただき、特にトラフグが餌を食べる姿に喜んでいただけた様子でした。マダイ稚魚は、全面透明の水槽に慣れていない様子で、投入した餌に飛びついて食べるというような反応がなかったのが残念でした。サイエンス・カフェ終了後に希望者にマダイとトラフグ稚魚を無料で譲りました。海水魚の飼育は難しいので、いつまで生き残っているか心配です。

サイエンス・カフェが始まる前には、水産研究所の歴史についての映像を流しました。展示水槽を見ていない一般参加者は、こ



の映像を見ているようでした。

《新たな発見および課題点》

今回のサイエンス・カフェのテーマを決めて、提供する話題の構成を考えている段階で、養殖の魚のイメージというのは決して高くないということが養殖雑誌のアンケートにありました。魚自体に対して面倒くさい、においがくさい、どうしていいかわからないというようなアンケート結果でした。サイエンス・カフェを始める前から不安もありましたが、実際の質疑応答では、本当に活発な意見の交換を行うことが出来ました。その結果、質疑応答の30分というのは短いと思いましたが、個人的意見ですが、一回で満腹させるよりも、次にも足を運びたくなるくらいのもを残しておいた方が良いのかもしれない。

今回は、準備の全てを奈良側のスタッフにご助力いただきました。心よりお礼申し上げます。水産研究所グループが奈良で行うには、旅費がかさんで人が出せず、結果として奈良側のスタッフにご迷惑をおかけすることになってしまいます。来年度以降のサイエンス・カフェの開催は未定ですが、白浜や串本、浦神などで行うことも考える必要があります。ただ、海のない県の奈良で行う意味は非常に大きいと思いますので、今回の開催場所の奈良というのは良い選択であったと思います。

参加者の評価(一般参加者 39 人中 34 人の方がアンケートにご協力くださいました！)

サイエンス・カフェ@近大COE第6回「安全でおいしい魚を作るには」に対する評価

参加者について

| 年齢 | 人 |
|-----|---|
| 10代 | 2 |
| 20代 | 7 |
| 30代 | 2 |
| 40代 | 3 |
| 50代 | 6 |
| 60代 | 6 |
| 70代 | 8 |

| 性別 | 人 |
|----|----|
| 男 | 22 |
| 女 | 12 |

| 科学に親しむ機会 | 人 |
|----------|----|
| 有 | 20 |
| 無 | 13 |

| 科学に対する興味 | 人 |
|----------|----|
| 有 | 31 |
| 無 | 3 |

話題提供の部

| | |
|------------------|-----|
| プレゼンテーション(5段階評価) | 4.6 |
| 話題の内容(5段階評価) | 4.5 |

| 印象に残った話題 | 人 |
|----------|----|
| 魚ができるまで | 7 |
| 美味しい魚作り | 10 |
| 安全な魚作り | 10 |
| 複数回答有り | |

会話の部

| | |
|----------------|-----|
| 演者の受け答え(5段階評価) | 4.6 |
| 受け答えの内容(5段階評価) | 4.6 |

会場の雰囲気

| 発言のしやすさ | 人 |
|---------|----|
| しやすかった | 18 |
| 普通だった | 9 |
| しにくかった | 0 |

| 発言したかどうか | 人 |
|--------------|----|
| した | 15 |
| したかったができなかった | 2 |
| したいと思わなかった | 3 |



-来年度以降の開催は未定ですが、参考にお伺いしました！-

イベント内容について

| 内容 | 人 |
|----------------|----|
| 次回のカフェ(未定)について | |
| また参加したい | 27 |
| 話題による | 9 |
| もう来ない | 0 |
| 複数回答有り | |

| 内容の難易度 | 人 |
|--------|----|
| 難しすぎる | 0 |
| 難しい | 0 |
| ちょうど良い | 27 |
| やさしい | 4 |
| やさしすぎる | 0 |

| 希望開催場所 | 人 |
|---------|----|
| あしびの郷 | 2 |
| 近大農学部喫茶 | 17 |
| 複数回答有り | |

| 開催ペース | 人 |
|------------------|----|
| 毎月開催 | 19 |
| 年に1回開催 | 2 |
| 集中的に開催 | 5 |
| その他 | 2 |
| (年に2,3回開催、隔月で開催) | |

| 開始時間と終了時間 | 人 |
|-----------|----|
| 10時～12時 | 1 |
| 13時～15時 | 1 |
| 14時～16時 | 24 |
| 15時～17時 | 25 |
| 午前中 | 1 |
| 夕方～夜 | 1 |
| 複数回答有り | |

広報活動の効果について

| どこで知ったか | 人 |
|-------------|----|
| 知人 | 8 |
| HP | 11 |
| ポスター | 6 |
| TV | 1 |
| 案内状 | 1 |
| 前回のサイエンスカフェ | 1 |
| 地方情報誌 | 1 |
| その他 | 2 |

| | |
|------------------|-----|
| HPの内容について(5段階評価) | 4.4 |
|------------------|-----|

内容について参加者からのご要望

- ☺ 生産場所を見学してみたい。
- ☺ 農薬や植物培養
- ☺ これからどのように完全養殖マグロを大量に流通させるのかを知りたいです
- ☺ 調理実習、小・中学生向け夏休み教室

会場について参加者からのご要望

- ☺ バスの連絡がすくない
- ☺ 電車-徒歩圏内
- ☺ 雰囲気が変わるので交互でもよい
- ☺ 白浜、大阪、和歌山

開催ペースについて参加者からのご要望

- ☺ 年に2,3回程度
- ☺ 隔月でもよい

ポスターを見た場所

- ☺ 奈良県立図書館
- ☺ 奈良県立情報館

HPについて参加者からのご要望

- ☺ バスの料金など詳しく、アクセスの方法が分かりずらかった
- ☺ 過去のプレゼン内容も掲載希望

参加者のコメント(アンケート結果より)

- ☺ ワムシを見てみたかったです。トラフグとマダイの赤ちゃんの実物が置いてあって、餌をやるのができたのはとても嬉しかったです。海水魚を飼うのは初めてですが、頂いたので頑張ってお育てしたいと思います。養殖マグロなどの近大ブランドの商品が生協で買えたらいいなと思いました(共同購入などで買えるのでお店に行かなくてもいいから)。魚離れが進んできているようですが、簡単で美味しい魚の調理法とか魚をさばくなどの技術が色んな形で広まっていったらもっと魚が売れるのではないかと思います。近大のHPでもそういう魚料理レシピなどのコーナーもあるといいなと思いました。
- ☺ わむしをみせて欲しかったです。クロマグロの刺身をみたい、食べたい。
- ☺ 2回参加させてもらいましたが、知りたかったこと、解決できました。いい企画でした。発展することを願っています。ケーキ美味しかったです。
- ☺ 実行委員会のみなさま 本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。
- ☺ 今後とも楽しい活動を続けてください
- ☺ 楽しく勉強できました。ありがとうございます。
- ☺ 環境保全に興味を持っています。また分子生物学についても知りたく思っております。そういった関係の講座、ご紹介があれば参加したいと思います。産学協同が水産の主流かとは思いますが、海洋環境の保全を対象とするサイエンス・カフェにも期待いたします。
- ☺ お疲れ様でした。どのお話も興味深く聞かせていただきました。それぞれの研究分野の知恵を生かして、マグロ研究が益々発展されることをお祈りしています。



写真おまけ
NHK 奈良放送局のサテライト
スタジオでサイエンス・カフェの
紹介をする COE 博士研究員の
中川さん。堂々の TV デビュー
です！

🌟 アンケート番外編

第1回から第6回のサイエンス・カフェ@近大 COE で提供した話題の中で再演希望のものを選んでもらいました。どの話題(タイトル)が参加者の関心をひきつけるのでしょうか！？(注意:過去のサイエンス・カフェに参加・不参加に関わらず聞いています)

| 再演希望 | 人 |
|---|----|
| クロマグロの遊泳行動(生簀内) | 9 |
| クロマグロの形と泳ぐための機能 | 6 |
| マグロの幼魚の群れ行動(明と暗) | 8 |
| マグロはどのくらい見えるのか | 4 |
| 小さいキハダの生活inフィリピン | 3 |
| トロのおいしさと機能性+マグロ肉の問題点(色調) | 9 |
| あなたのまわりには水銀がいっぱい:魚介類の問題点 | 8 |
| イカの内臓にはカドミウムが蓄積されていることを知っていますか?:魚介類の問題点 | 8 |
| クロマグロを卵から飼ってみる | 8 |
| ウナギの赤ちゃんを育てる | 6 |
| 希少な魚を守る取り組み | 7 |
| 細菌って何だろう? | 8 |
| 魚を食べる病原菌「私にだって好みがあります」 | 8 |
| これが私の生きる道-ビブリオ君の場合- | 5 |
| バランスが決め手、細菌たちと魚の関係 | 8 |
| 海をきれいにする細菌たち | 12 |
| 養殖マグロ生産のコストとリスク | 5 |
| 流通とコストのABC | 5 |
| 消費者からみたマグロ商品 | 4 |
| 魚ができるまで | 6 |
| 美味しい魚作り | 6 |
| 安全な魚作り | 10 |

複数回答有り

← 3位!

← 3位!

← 1位!!

← 2位!

☀ ~サイエンス・カフェ@近大 COE を支えてくれたスタッフの皆さんからの寄せ書き~

サイエンス・カフェ@近大 COE は沢山のスタッフに支えられて最終回を迎えることができました。スタッフの皆さんからのコメントをご紹介します。

横井謙一(種苗生産・養殖グループ PD)

<第4・5・6回サポーター、道案内>

サイエンスカフェには第4回から参加しました。担当はカフェの案内板をもって商店街をうろうろし、ニコニコと笑顔を振りまくいわば“歩く広告塔”でした。そして、声をかけてくださる方々に企画の説明をしたり道案内をしたり、時には雑談したりと楽しく仕事をさせていただきました。この企画は回を重ねるごとに参加人数が増え、とくに5・6回目はかなり盛況だったように思います。商店街を歩いていても声をかけられる機会が増え、「まだ余裕ありますか？」なんて聞かれることもしばしばありました。

近大サイエンスカフェは第6回をもって終了となりましたが、大成功のうちに幕を閉じたのではと思います。この企画に携わったクロマグロCOEプログラムの先生方やスタッフの皆さま、本当にお疲れさまでした。また、企画を盛り上げてくださった参加者の皆さま、ありがとうございました。

山本 尚俊(流通・経済グループ PD)

<会計班長、第5回話題提供者、第1回客、第3回カメラ係、第6回案内係&サポーター、若手シンポ企画・予算計画書案作成、予算配分の見直し・検討、浦神事務局との予算執行調整担当>

当初、打ち合わせの場でサイエンス・カフェ開催の話が持ち上がった時は、サイエンス・カフェとは如何なるものかさえ理解できず、若手シンポ事業として相応しいものなのか、実現可能なのか半信半疑の状況でした。その後、予算班長の任を受けた私は、実態が見えないだけに、予算・支出項目に何を設ければ良いか、何にどの程度配分すれば事足りるのか分からないことだらけで、かなり困惑したのを思い出します。そういった不安・心配事は、シンポ打ち合わせを積み重ね、メンバー間の議論・意思疎通が図られ、また実際にカフェを開催するなかで徐々に薄れて行くとともに、テーマ設定・報告・討論等に関する問題・課題が浮き彫りとなるなど、少しずつではありますがサイエンス・カフェ近大は着実な前進・発展を遂げることができたと感じています。私は、第5回カフェで話題提供の場に立たせて頂き、しばしば諸悪の根源として捉えられがちな「流通とコスト」を主題に報告を行いました。一般の方々とお話し、議論する、あるいは伝えたいメッセージを報告に込めることの難しさを改めて痛感しましたが、消費者の方々の率直なご意見・お考えに触れることができ、大変良い勉強機会になりました。このサイエンス・カフェ企画から多くのことを学び、経験することができたのではないかと思います。貴重な機会をお与え頂いた近大 21COE プログラムの教職員各位、若手シンポメンバー、さらにはサイエンス・カフェにご参加頂いた一般の方々に厚く御礼申し上げます。

中原尚知(流通・経済グループ PD)

<企画班、リハーサル用チェックシート作成、第5回話題提供者、第6回サポーター>

私は当初、“サイエンス・カフェ”という言葉さえも知りませんでした。そのため、どんな内容なのか？どんな人たちが来てくれるのか？集客の方法は？自分がやるなら何を話せばよい？等々、？マークだらけのスタートになりました。しかし、メンバーそれぞれが自分の研究活動との兼ね合いの中で時間を作り出し、アイデアや意見を出し合いながらのミーティング(侃々諤々)を重ねる中で、徐々にイメージが掴めてきました。

そして、緊張の第1回に始まり、第4回まで順調に行われる中で、自分たちが話題提供を行う第5回に対するプレッシャー(ワクワク感を含む)を感じ始めていました。しかし、あーでもないこーでもないと何度も何度も内容を練り直した事や、メンバー各位のご協力、そして何よりもご参加下さった方々の熱意のおかげで、成功というレベルに達することができたのではないかと、思っています。そして2007年3月10日には第6回が行われ、全日程を盛況の中終了することができたわけです。

サイエンス・カフェ@近大に対する評価というのは、ご参加下さった方々がどのように思われたか、ということに尽きると思うのですが、私個人としては、どの回においても趣向を凝らした内容を気楽な雰囲気提供すること、そして参加者の方々と楽しい時間を共有することが実現できたのではないかと、考えています。

このサイエンス・カフェを通じて、一般の方々に研究内容をわかりやすく伝え、語り合うという機会が持てたことは、とても良い経験になりました。大変な事もありましたが、それも含めて楽しい取り組みであったと思います。委員長を始めとするメンバーの方々、見守っていただいた先生方、ご参加いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

鳥居享司(流通経済グループ PD)

< 会計担当 >

「難しいことを難しく伝える」ことは誰にでもできます。学会発表であればそれでよいのですが、カフェの聞き手は研究者ではありません。小学生から主婦、高齢の方など非常に幅広い方々であり、そういった方に分かってもらえなければカフェ開催の価値はない。「難しいことをいかに分かりやすく伝えるのか」、その一点に苦心したサイエンスカフェだったように感じます。相手が理解できるように話す。このことは今後、我々が大学等で教鞭を執る際に気をつけなければならない点のひとつだと思います。学問の入り口に立った学生に、いかに興味を抱かせ、いかに理解させるのか。話し手の自己満足のみで終わるのではなく、聞き手の理解をいかに高めるのか。

今回のカフェの開催は、学外の方々に対して我々の研究活動の成果を広めサイエンスへの興味を高めるという意義を有するとともに、大学等での研究・教育活動を志す我々にとっては訓練の機会という意義もあったように感じます。

鈴木 勝也(資源動態グループ PD)

< 第3、5、6回ビデオ、ホームページ管理担当 >

近大COE研究員として採用されたのが2006年10月からだったので、サイエンス・カフェ@近大には第3回からの途中参加となりました。カフェ参加時は主にビデオ撮影を担当しました。カメラを持ちながらディスカッション中のテーブルを回り、参加者の皆様が積極的に出されるご意見に耳を傾けていました。また、サイエンス・カフェ@近大のウェブサイトの管理を先任の畑山君から引き継ぎました。カフェの内容や雰囲気伝えるにはどのような形でウェブ上に公開すれば効果的かを考えたり、ウェブ上に情報公開する際に注意すべき点を教えていただいたりと、たいへん良い経験をさせていただきました。参加者およびスタッフの方々、本当にありがとうございました。

鳥澤真介(資源動態グループ PD)

< 渉外班、タイムキーパー、第1回サイエンス・カフェ話題提供&コーディネーター >

私はサイエンス・カフェ@近大を開催するにあたり準備段階では渉外係を担当、第1回~第6回のサイ

エンス・カフェ開催時にはタイムキーパー、第1回では司会進行・話題提供を担当しました。

最初は研究成果報告会をいつ、どこで、どのように、だれを対象として開催するのかを考えるところから始まり、委員長から提案の一般の方を対象とするサイエンス・カフェというものをやってみては？という一言を発端にサイエンス・カフェ@近大はスタートしました。

近大 COE グループの研究者と院生が一般の方に話題を提供し、気軽にカフェで科学を語り合ってみようというコンセプトはとても面白いと感じましたが、準備期間が非常に短く、いきなりの船出ということで、体当たりのチャレンジでした。さらに、私たちの資源動態グループは第1回目の話題提供者に手を挙げたので、どのようにサイエンス・カフェを進めるのかそのスタイルを考えることから始めなければなりませんでしたが、スタッフの皆さんの協力でどうにか無事に初回のサイエンス・カフェをかたちにしてスタートさせることができました。

いつも不安を抱えながらの開催でしたが、一般の方々に私たちの研究を知ってもらい、科学について語り合う機会を提供したいと考えていた企画が、いつの間にか一般の方々に望まれるものになったように感じられ、今後のサイエンス・カフェ存続を期待して応援して下さる参加者の方からの書き込みを読ませていただいた今では非常に感慨深い思いで一杯です。

中瀬玄徳 (環境保全グループ DC3)

<企画班、リハーサル日程調整、第4回話題提供、第2回～6回サポーター、打ち上げ幹事>

サイエンスカフェの企画は、従来のシンポジウムとは違うことをやる、ということから始まりました。目的としては、自分たちの仕事を普段かかわりの無い人たちに、どんな研究をしているのか、楽しみながら知ってもらい、あるいは、聴衆と発表者が双方向のやり取りをする、ということが挙げられていたかと思います。全6回のカフェのアンケート結果を見ると、これらの当初の目的もほぼ達成できたかと思います。確かに大変な作業の連続ではありましたが、反響が大きいのはうれしいことで、励みにもなりました。一度もやったことの無い企画でしたので、このやり方でいいのかという不安は常にありましたが、来てもらった人のアンケート結果を見ると、成功といってよいのではないかと思います。無事に、そして成功のうちに終わりがよかったです。みなさまお疲れ様でした。

北野 慎一 (流通・経済グループ PD)

<広報班長(第2回以降)、第5回話題提供者、第1回客、第2・3・6回サポーター、ポスター貼付、TV 広報(NHK 奈良放送「なっきーポスト」コーディネート)>

私はカフェ全体の運営については広報係として関わらせて頂きました。具体的には、主に奈良市内の主要施設へのポスターの貼付や TV 等による開催案内の告示を行いました。まず、最初に苦労したのはポスターや案内の掲載場所の選定でした。広報(掲示料)に直接的な出費が出来ないということでしたので、駅等の広告料を取る場所は除外され、最終的に公共施設及び教育機関を中心に貼付の依頼する事になり、最終的に許可の得られた30数カ所に掲示しました。また、TV(NHK 奈良放送「なっきーポスト」)での広報活動のマネジメントもさせていただきました。毎回、話題提供 G より出演をお願いし、中にはユニークな広報を行ったGもありました。残念ながらTVを見て直接カフェに参加された方はあまりいらっしゃいませんでしたが、今回の取り組みを不特定多数の人に発信できたのは良かったと思います。

第5回カフェでは「養殖マグロの価格のウラ側」というテーマで話題提供 G として会の開催に携わりました。私自身は「消費者から見たマグロ商品」というタイトルで話題提供を行い、普段一般消費者の目にマグロ商品がどのように映っているかについて調べた結果を紹介いたしました。私は自分の研究成果に直

接関連する内容の報告を試みたため、少し内容が難しかったのではと反省しております。一般の方々に研究内容を理解していただくことの難しさを痛感するとともに、非常に良い経験になったと思っております。

私はこれまで、研究と一般社会との距離について深く考えることはありませんでした。今回、サイエンスカフェ@近大に携わった事によりその距離感について少なからず実感できたように思います。研究も社会的意義を求められる時代となった今、今回のような研究への理解を求めたり、教育活動を目的とした企画は、研究活動そのものの社会的ポジションの確保のためにも重要であると考えます。「産業支援型」を謳う本 COE の様に社会的意義がストレートに求められる研究分野については特に重要なのではないのでしょうか。いずれにしても、様々な形で本企画に参加でき、様々な事を学ぶことが出来たことを光栄に思っております。

中川至純(水産研究所・白浜・PD)

<第6回サイエンス・カフェ コーディネーター & 司会・進行>

奈良キャンパスの皆さんのおかげで第6回を終えることができました。本当にありがとうございました。様々なグループが独自の動きをしていますが、ひとつの目標に向かって行動することは、COEが成功するためには必要なことだと思います。若手がこのようなグループ横断的な動きをとれたことは本当に重要な意味があると思います。来年度 COE 最終年へ向けて上げ潮！

「科学」とは「私自身」であり、世のため、人のためであらねばならない。

柳下直己(奈良増殖グループ PD)

<渉外・広報委員、奈良増殖グループ代表、第1回、第5回、第6回写真、第2回、第4回サポーター、第3回司会・進行担当>

手探り状態からはじめたサイエンスカフェ、はじめは不安で一杯でしたが、多くの方々に近大 COE における研究を知っていただくことができたようで、少なからず目標を達成できたのではないかと思います。また、カフェを通じて、一般の方々は水産・養殖研究のどのような点に興味があり、どのような疑問を抱いているのかなどについて、ほんの一部なのかもしれませんが伺い知ることができました。COE 研究に関する一般の方々からの意見や感想、疑問等は、今後、自身の研究を進める上でも大いに参考となるものであり、このような場がなければなかなか得られない大変貴重なものであると思います。色々と苦労もありましたが、COE 研究員としてサイエンスカフェの運営に関わることができたことを、大変うれしく思います。

田村優美子(資源動態グループ DC1)

<企画班班長、リハーサル日程調整、第1回話題提供者、第2回～第5回サポーター、打ち上げ幹事>

サイエンス・カフェを通じて、科学することの”ワクワク、ドキドキ、感動！”を参加していただいた方々に少しでも伝えられたのなら嬉しいです。新鮮な意見や発想に触れることができ、私にとっても学ぶべきことが多い良い機会となりました。委員長をはじめサイエンスカフェ実行委員のみなさん、サポートしてくれた院生のみなさん、おつかれさまです&ありがとうございました。

鈴木 誉(種苗生産・養殖グループ PD)

<第4・5・6回サポーター、道案内>

サイエンスカフェではサポーターとして参加者の質問を引き出すのが主な役割でしたが、雑談ばかりになってしまい肝心の質問をなかなか引き出せず、結構苦労したのを憶えています。また、参加者の色々な

意見や考えを知ることができたことはいい経験になりました。

私はサイエンスカフェスタッフとしては途中参加だったので、企画や運営にはまったく関わってなかったのですが、委員長を始めとしてそれらの役割の人は色々大変だったと思います。お疲れ様でした。

荘司 哲 (水産学科4回)

<ポスター用写真撮影、第4回サイエンス・カフェ写真撮影>

サイエンス・カフェの話をもっと聞いた時はカフェでサイエンスなんておもしろそうな企画だ！と思いました。ポスター用写真ではそのカフェの雰囲気が伝わる様に、でも気負わず撮影しました。少しでもサイエンスカフェのお役に立てて嬉しい限りです。

畑山純 (資源動態グループ MC2)

<HP 立ち上げ&初代管理者>

遠藤周之 (資源動態グループ MC1)

<サイエンス・カフェ ロゴマークデザイナー>



川上優(種苗生産・養殖グループ PD)

< 広報、第3回話題提供者、サポーター >

サイエンスカフェにおいて自分の研究をより客観的にみることができました。各論を話した方が良かったかもという思いも残り、今後の課題となりました。これからも一般向けで話す機会は多いと思うので、私のような専門をどれだけ噛み砕いて、また水産学的な意義や興味についても自問自答しながら今後研究をさらに発展させていきたいと考えています。

中村好徳(元食品安全性・加工グループ PD、現在牛飼い)

< 元広報部長 >

永田委員長から寄稿の依頼がありましたので、僭越ながら一言感想などを述べさせていただきます。当初、困惑と疑問の渦中で始まったサイエンスカフェなるものが、よく最終回までたどり着いたなど正直なところ思います。毎回、委員長のご好意により、報告書を拝読させて頂いておりましたので、およその進行は把握しておりました。実行委員がPD中心ということもあり、ほとんど足並みも揃わずに始まった企画であったと思います。特にPDにとっては業績としてカウントされない、つまり余計な仕事と憤慨した方々もいたことでしょう。それでも回を重ねるにあたり、徐々に手助けしてくれる方が増えたことにまず御礼を申し上げます。また、強引に2代目広報部長をお願いした北野さんにも御礼を申し上げます。

企画、営業、そして接客と、研究者にはもっとも苦手とすることを、各自が責任を持ち、嫌々ながらも行った成果が、このたび大きな花火となりました。そんなところにポスターを貼るなど悪態をつかれ、もう来るなどと言われ、はたまた営業の途中で入った飯屋でカキ氷を食べて便所に入ったら、終わるまで扉が全開になっていたことに気がつかなかったなどと、思い出話しはつきないものでございます。しかし、今回の企画で一番鮮烈に感じたことは、人材の適材適所の重要性であったと思います。これが比較的うまく運んだために、何とか最後までいけたのではないかと考えております。関係各位に御礼申し上げます。最後になりましたが、良きライバルでもあり、懐かしいPDの皆様にも御礼を申し上げ、小生のあとがきとさせていただきます。ありがとうございました。

～上記スタッフ以外に、話題提供者やサポーターとして参加して下さった方々。(順不同)～

宮下先生(水産研究所 教授)、**家戸先生**(水産研究所 助教授)、**那須さん**(水産養殖種苗センター白浜事業場 場長補佐)、**西田君**(水産増殖研 MC1)、**小笠原君**(水産経済研 MC1)、**木原君**(水産経済研 MC1)、**江口 充先生**(水族環境研 教授)、**池田君**(水族環境研 MC2)、**金又君**(水族環境研 MC2)、**野村さん**(種苗生産・養殖グループ 社会人 DC2)、**上原さん**(種苗生産・養殖グループ 社会人 DC3)、生物研の院生の皆さん、生物研の4回生のみなさん、**川崎先生**(利用研 教授)、**塚正先生**(利用研 助教授)、**安藤先生**(利用研 助教授)、**松岡君**(利用研 MC2)、**岡野君**(資源動態グループ DC1)、**福田君**(資源動態グループ MC2)

ありがとうございました！！



サイエンス・カフェ@近大 COE を終えた今考えること-委員長レポート最終回-

永田恵里奈 (環境保全グループ PD、委員長)

私がお風呂の中でぼんやり考えていたのは、「何でサイエンスの話で盛り上がるこってないんやろう」でした。友人が拙宅に集まり、アルコールが入ると、サイエンスの話で盛り上がるが多々あります。「これってどうなってるんやろう」「こんなことができるようになったら面白いのに」「このアイデアで商売できるんじゃないか」「これってもうメカニズムは解明されてるの」等々、あーでもないこーでもないと盛り上がります。でも、それは私の友人の中でも一部のちょっと変わった一群が集まった場合です(ゴメン、該当者たち)。ジャズバンドやピアノの生演奏、落語や漫才など、これらをお客さんがリラックスして聞いて楽しむ時間が提供されていますが、サイエンス話も結構うけるんじゃないだろうか、結構面白いと思うなあ、そのようなことをぼんやり考えていました。学会に行っても、論文を読んでも、「へえ〜」と思うような小話(新しい知見や研究)を目や耳にします。ただ、これらの話しは、たいてい面白くない(とつきにくそう)雰囲気の中で紹介されることが多く、残念なことだと思っていました。その後、ヨーロッパではビールを片手にサイエンスの話で盛り上がるバーがあることを知りました。ちょうどその時に近畿大学 21 世紀 COE プログラム内の若手メンバーが企画するシンポジウムのミーティングがあったので、「提案してみようかな」と思った次第です。

スタッフの寄せ書きのところでも書いてあるように、若手メンバーを大きな混乱の渦に陥れた第 1 回目のミーティングを今でもよく覚えています。我々ポスドクはこの COE プログラムの間に研究業績を積み、次の職を得るために日々邁進しないと、プログラム終了後 路頭に迷ってしまいます。できれば、サイエンス・カフェのような業績にカウントされない余計な仕事はせず、次につながる仕事をしたいと思うはずですが、短期的に見れば、あまりメリットがない(プレゼンのスキルアップにはなりますが)サイエンス・カフェの運営に、ほとんどのスタッフが気乗りしていなかったことでしょう。

そこからは、なかなかスリリングな毎日でした。委員長を引き受け、この企画をもう一度若手メンバーのみんなに説明し、理解と協力をお願いしました。この企画は到底私一人でするものではありません。私のアイデアを正確に人に伝え、協力してもらうことはとても難しいことだとつくづく思いました。私の能力不足で何回もミーティングを開かないといけなかったこと、そしてその度に皆さんを混乱の極みにいざなったことを反省しています。サイエンス・カフェの準備は、スタッフの皆さんが実験に、調査に、論文書きに、学会発表にと忙しいスケジュールの合間を縫って行われました。さらに、これはこれまでのどのシンポジウムとも違う全く新しい試みであったため、何をいつまでにどうすればいいのか、分からない中での準備作業はハラハラドキドキの連続でした。そんな中、第 1 回目のサイエンス・カフェが成功に終わり、参加者の皆さんから「楽しかった!」「また来るわ!」、中学生の参加者からは「大学でマグロの研究がしたい」というコメントをいただき、さらに話題提供者側の研究者の表情も参加者との会話にまんざらではない満足した顔をしているのを見て、この企画は研究者と一般市民の両者が必要としている、両者の架け橋となる素晴らしい企画ではないか、とひそかにガッツポーズをしてしまいました。

サイエンス・カフェを 6 回のシリーズで開催しました。定期的で開催することで、面白い企画であれば人は口コミで集まり、最終的には沢山の人来てもらえると思ったからです。学内セミナーで COE プログラム内で行われている研究経過報告を聞いて面白いなあと思っていたので、サイエンス・カフェで提供する話題の内容には自信を持っていました。結果は予想通りで、サイエンス・カフェ@近大 COE の総参加者数は 166 名となりました。当初の目標が 150 名でしたので、予想以上の成果をあげることができました。

混乱の中から始まったサイエンス・カフェ@近大 COE ですが、COE 若手メンバーが体当たりで取り組んだ結果、無事最終回までこぎつけることができました。なんだかんだ言っても最後の最後まで、一生懸命お付き合いくださったスタッフの皆さんに心からお礼を言いたいと思います。

参加者の皆さまへ

このサイエンス・カフェは、COE プログラム内で行われている研究に絡んだ話題をご紹介します、皆さんと共に、最新の科学をネタに、気軽に、リラックスして、語り合うことを目的として企画されました。この企画を通して、皆さんに、我々が感じている科学の楽しさ、面白さを知っていただけたらこの企画は大成功だと考えていますが、参加者の皆さま、いかがでしたでしょうか？細部まで手が回らず、参加者の方々からいただいたご要望の中にはお応えできなかったものもあり、非常にもどかしく思っておりました。しかし、参加者の皆さんから、「是非続けて欲しい」「非常に楽しかった」とのコメントを頂く度に、その言葉の一つ一つが我々スタッフの駆動力につながりました。参加者の皆さまに心より感謝申し上げます。

サイエンス・カフェ@近大 COE は今回を持ちまして、終了させていただきます。今後の予定はまだ決まっておりませんが、我々若手一同これからも精進してまいりますので、また機会がありましたら、是非一緒にこのような時間を共有したいと考えております。

応援してくださった教職員とあしびの郷の皆さまへ

サイエンス・カフェ@近大 COE の運営は主に若手メンバーで行ってりましたが、話題提供等には沢山の先生方のご協力が不可欠でした。先生方がお忙しい時間を縫って、提供話題の内容を色々と考えてくださり、講演を行ってくださったおかげで楽しいサイエンス・カフェでの会話が生まれました。ありがとうございました。また、宣伝や運営の仕方、事務手続きなど、分からないことだらけでしたが、色々と面倒を見てくださった先生方および浦神実験場事務職員の方々にお礼申し上げます。特に、浦神実験場事務職員の皆様には、お忙しいところを毎回のカフェで電話受付と案内をしていただき、本当にありがとうございました。サイエンス・カフェの企画趣旨に理解を示し、会場を貸していただきました奈良町あしびの郷の取締役副社長西田さんにも心からお礼申し上げます。

スタッフの皆さまへ

近畿大学 21 世紀 COE プログラム内には大きく 4 つのグループがありますが、グループ間での交流、特に若手メンバー間での交流、というのはあまり活発ではないように思っていました。同じ旗印の下に集まった「実はゆかいな」仲間達で、何かどかんとやりたいと思っていました。今回、サイエンス・カフェ@近大 COE を若手メンバーで運営することによって、横のつながりが強くなったように感じています。来年度の若手シンポジウム企画枠で何をするかは今後の若手のミーティングで考えると思いますが、またこのメンバーで面白いことができればいいなー、と思います。え？もういい？ま、そこんとこ一つよろしく！